

会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原駅北口地区まちづくり推進会議				
事務局 (担当課)		相模原駅周辺まちづくり課 電話 042-707-7026 (直通)				
開催日時		令和3年9月7日(火) 18時00分～20時00分				
開催場所		WEB会議				
出席者	委員	13人(別紙のとおり)				
	その他	0人				
	事務局	11人(広域交流拠点推進部長、相模原駅周辺まちづくり課長、外9人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	2人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
議 題		1 開会 2 議題 (1) 第3回推進会議の振り返りについて (2) 民間企業アンケート・ヒアリング結果について (3) 導入機能の検討について (4) 道路・景観・環境等の考え方の検討について (5) その他 3 閉会				

議 事 の 要 旨

1 開会

2 議題

(1) 第 3 回 推 進 会 議 の 振 り 返 り に つ い て

事務局より資料 1 に基づき説明を行った。

(2) 民 間 企 業 アンケート・ヒアリング結果について

事務局より資料 2 に基づき説明を行った。

(布施委員) 民間企業アンケートの回答率は 8 . 8 % と低い。業種別回答状況について、例えば教育サービス業は「 4 件配付のうち 2 件回答で回答率が 5 0 % となり、関心が高い」と整理されているが、業種によって配付数にばらつきがある中で、この結果をどう捉えたらよいか。

(大沢委員) 民間企業アンケートの回答率は、 2 から 3 割程度を目安としているため、今回の回答率は高いものではない。これは結果として受け止め、今後、この土地のことを周知していくことが重要である。また、業種別の配付数にばらつきがあるため、各業種の回答率の取扱いには注意が必要と考える。

(安藤(孝)委員) 地区のまちづくりへの参入意向で「入居は行わず企業活動を検討」とあるが、これはどのような意味か。

(事務局) 土地を買ったり、建物を建てたりということではなく、情報サービスや金融サービスなど、自社で保有しているサービスをこの地区で展開したいというイメージである。

(3) 導 入 機 能 の 検 討 に つ い て

事務局より資料 3 に基づき説明を行った。

< ライフ分野の機能について >

(中島委員) 総合計画では、少子化対策として「安心して妊娠・出産、子育てができる環境を整備し、切れ目のない支援を行う」ことが重点テーマとして位置づけられている。相模原市は子育て支援施設が少ないため、親は町田市や大和市のような子育て支援施設が充実している地域に出かけている。市内で安心して子育てできる施設を配置してほしい。ワンストップでサービスを受けられるような複合施設があると安心できる。

(安藤(孝)委員) 日常的に多くの人が集い、にぎわいのあるまちを目指すためには、広域交流拠点としての関心を高めることが必要である。ライフを支える居住機能、商業機能、オープンスペース機能を検討するにあたって、官・民・その他関係団体との連携を図ることが重要である。地域住民だけでなく、広域か

つ多世代の人の関心を集める魅力的な施設ができればよい。また、災害時における機能も重視してほしい。新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえると、避難所の収容可能人数は減少することが想定される。避難所のような防災機能については関係団体と連携して取り組む必要がある。隣接するスポーツ・レクリエーションパークは憩いの場として活用されているので、こちらも導入機能の検討に考慮してほしい。さらなる利便性の向上を考えると、本地区周辺の交通網の整備も必要である。

(赤瀬委員) 導入機能が総花的過ぎて、本地区の特徴が出ていないように感じる。商業機能も、オープンスペース機能も、あらゆる地区で検討されているため、本地区における特徴を見出せるとよい。

(川口委員) 15ha という限られた面積の中に、あらゆる機能が詰め込まれすぎているように感じている。これまでの議論を踏まえて取舍選択をしなければならない段階にあるのではないか。JAXA 監修の博物館などができれば、地域の特徴となるのではないか。また、スポーツ・レクリエーションパークが隣接しているため、スポーツに関連する機能は本地区には配置しなくてよいのではないか。

(細谷委員) 導入機能が多岐にわたっている印象である。相模原駅南口や橋本駅に商業施設があるほか、近隣にスーパーもできる予定があり、商業機能は類似してしまう。子育て中の方が、スポーツ・レクリエーションパークは相模原駅から近い広場で珍しいと言っていた。オープンスペースをつくって、子育て世代や子供たちがのびのびと遊べる大きな広場もよい。様々な機能を建物で解決するのではなく、子育て支援のイベントやシビックプライド育成のためのイベントを行う、フリーマーケットを行う等、機能の使い分けをしてはどうか。交流や子育て支援に注力しながら、多彩なことができるとよい。

<イノベーション分野の機能について>

(布施委員) 橋本エリアと機能が重複しないようにすべきである。橋本エリアは既にまちとして出来上がっているところに手を加えていくことになるが、相模原エリアはゼロからまちをつくる点で違いがある。また、ライフ×イノベーション シティというコンセプトは、相模総合補給廠全体で実現するものであり、そのうち本地区の15haはこのようになる、ということで、将来を見据え段階的にまちをつくるという視点があってもよい。

(安藤(重)委員) 相模原市の産業振興の視点では、研究機能の導入が考えられる。後背地には多摩地域があり、また、JR 横浜線によって横浜などの地域とつながることができ、アクセス性がよい。そのため、企業連携で新しいイノベーションを生み出す可能性があると考えている。また、若い世代がスピンオフ企業を立ち上げることでスタートアップ企業が生まれる可能性もある。橋本エリアと

の関係や、ライフ機能や交流機能との組み合わせの視点もあるため、単なる研究機関ではなく、複合的な要素も必要となる。

(池田委員) 市全体で見ると、橋本エリアのまちづくりが先行しているため、相模原エリアのまちづくりはそちらと重複しないものがよい。また、脱炭素に向けた取組をアピールすることも前提として考えるべきである。本地区は15haという限られた面積であることから、機能を絞ってまちづくりを進めていく必要があると考える。

<交流・にぎわい分野の機能について>

(小林委員) 市民にとっても居場所になるような空間が必要ではないか。一過性の関係ではなく、象徴的かつ継続的な関わりを持てるようなイベントをできる空間があるとよい。将来的に技術が発展することを想定すると、相模原市を象徴するようなイベントがあって、そこにロボットが関わることも考えられる。例えば、コワーキングスペースで技術を体験できるワークショップなどを行えると教育や交流にもつながり、体験としての商業機能にもなるのではないか。また、コワーキングスペースは社会人や学生だけの利用を考えるのではなく、子どもが参加できるようなワークショップがあると、多世代の交流が生まれたり、働くことへの意識を感じる場にもなる。他の委員の意見を聞いて、安心できる空間として、意味づけのない場所、広場やオープンスペースのようなものが重要であると感じた。

(牧野委員) 先ほどから、橋本エリアとの差別化について意見が出ているが、本地区外の住民をターゲットに考えると、相模原エリアと橋本エリアで同じ機能があってもよい。ただし、商業施設としては、交通アクセスのよい橋本エリアに集まるのではないか。そのため、本地区には、シンボリックなものをつくり、差別化を図ることが必要ではないかと考えている。観光という視点からは、スタジアムやコンベンション機能などを導入する中で、ポストコロナや脱炭素、イノベーションを取り入れていけるとよい。

<機能連携について>

(高橋委員) 全体としては、これまでの議論が踏まえられており、納得できた。また、委員の意見を聞きながら、もっと具体的に内容を詰めていく段階にきていると感じた。機能連携としては、“場”というよりも、運営が重要である。大学や研究施設、行政、市民、企業と様々な機関が関わるため、それを交流させていくコーディネート組織や要員が必要である。また、まちづくりコンセプトをライフ×イノベーションシティとしているため、余白をつくることも重要。ハード面、ソフト面を決めてしまうと、イノベーションが止まってしまうよう

に思うため、意味づけのない場所が必要という意見に賛同する。

(大沢委員) 各機能が触発し合いながらイノベーションを起こしていくということは理解できた。この空間で、各種主体がどのように活動するか、シナリオを物語的に書きながらイメージを膨らましてはどうか。それを市民に示しながら理解を得られるとよい。市の課題として、昼間人口と交流人口の拡大とあったが、コロナ危機を踏まえ、従来の昼間人口とは異なる、新たな昼間人口の層が生まれている。その層の居場所づくりを行うことで、触発し合いながら新たなビジネスが生まれる可能性もある。また、本地区のほかに、相模総合補給廠としては広大な土地があるため、そこを踏まえたストーリーも重要である。

(佐藤会長) これまでライフ×イノベーション シティとして議論を重ね、導入機能のベースができてきた。シナリオやストーリーをつくって、機能を絞り込んでいく。これまでの議論では、ワクワク、つながり、体験などのキーワードが出てきており、これを一つの方向性としていけるとよい。また、相模原独自のものとして、リニアや JAXA という意見が出ていたが、これらは世界的にも知られているシンボリックなものでもあるため、これも踏まえて絞り込んでいく必要がある。橋本エリアとの連携・役割分担については、重複するかどうかも踏まえ、橋本エリアと相模原エリアの両輪でまちづくりを行うということも一つの独自性になると思う。本地区のまちづくりは、200haのうちの15haの更地を活用できるという点も独自性の一つであることから、この点も生かせるとよい。地域の人や企業との対話を重ねながら、実現性のある計画としていきたい。また、関係性という視点では、継続性が重要であり、ワーキングスペースやワーキング団体等の活動場所をつくることも必要である。連携という視点では、データ連携のみでなく、ハブ機能として使うことで、実現性があり、まちを活性化できるものになると考えている。

(4) 道路・景観・環境等の考え方の検討について

事務局より資料4に基づき説明を行った。

(布施委員) スケジュールについて教えてほしい。

(事務局) 令和2年12月から推進会議にて導入機能について検討しており、今年度中に土地利用方針を取りまとめる予定である。令和4年度以降のスケジュールは、他地区事例を踏まえての想定になるが、土地利用計画を策定し、国に提出する。土地利用計画を国有財産審議会にかけることも想定される。国には地元の意向に即した形で処分を求めることになると考えている。

(大沢委員) 安全で回遊性の高い自動車とあるが、自動車も回遊させるのか。オリンピックの選手村で自動運転の車両が回遊していた。そのようなイメージであれば、優位性のあるものだと思う。新たなモビリティが出てきたときに、それ

を早く体験できれば、世界的にアピールできる。

(事務局)安全で回遊性の高い歩行空間ということであり、自動車を回遊させるという意味ではないため、表現を修正する。なお、自動運転に対応できるインフラ整備は必要だと考えている。今年度策定する土地利用方針で、どのように表現するかは検討中のため、次回の会議で調整させてほしい。

(大沢委員)景観形成について、用途地域や容積率、建ぺい率等の都市計画については検討しないのか。

(事務局)土地利用方針としては、あくまで導入する機能を検討する。都市計画については、具体的な施設を検討する際にあわせて整理する。

(細谷委員)景観形成のイメージとして示されたものは、きれいな街並みであるが、それは「過ごすまち」というよりも「整った施設」というイメージである。本地区の周辺は住宅地なので、周辺と調和した居場所となる景観になるとよい。例えば、樹木を子どもたちが植樹し、子どもの成長とともに木々も成長するというような、市民参加とセットで考えられると交流も図れてよいのではないかと。

(中島委員)バリアフリーの視点は、子育て世代のみならず全体的に必要な。子育て中は、ベビーカーを使うことが多い。公園等に設置されている自転車止めがあることで、施設内で安全に遊べる一方、双子用のベビーカーが入らない等の問題もある。様々な人が安全、安心に使える場所、何も無い空間という意見が先ほどから出ているが、よい意見だと思った。また、男性が街中でミルクをあげられる場所やおむつを替えられる場所が少ない。子育てに優しいまちということで、街中における子育て支援についても考えてもらいたい。

(佐藤会長)貴重な意見をいただいたのでこれを踏まえて土地利用方針をまとめていきたい。

(5) その他

今後のスケジュール等について確認した。

3 閉会

相模原駅北口地区まちづくり推進会議 委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	大沢 昌玄	日本大学 理工学部 土木工学科 教授	職務代理	出席
2	佐藤 知正	東京大学 大学院 新領域創成科学研究科 名誉教授	会 長	出席
3	高橋 聡	内閣官房 地域活性化伝道師 (カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社 公共サービス企画営業事業本部 事業本部長)		出席
4	牧瀬 稔	関東学院大学 法学部 地域創生学科 准教授		欠席
5	安藤 孝洋	相模原駅周辺まちづくり推進連絡協議会 副会長		出席
6	小林 美羽	公益社団法人 相模原・町田大学地域コンソーシアム さがまち学生 Club 学生メンバー		出席
7	布施 昭愛	相模原商工会議所 事務局長		出席
8	中島 隆子	子育て親育ち応援団 W i t h . c f c 代表		出席
9	森 道洋	公益社団法人 相模原青年会議所 アカデミー渉外委員会		欠席
10	安藤 重夫	株式会社 さがみはら産業創造センター 取締役 事業創造部長		出席
11	池田 亨	株式会社 横浜銀行 相模原駅前支店長		出席
12	牧野 英太郎	株式会社 J T B 相模原支店長		出席
13	赤瀬 公男	公募委員		出席
14	川口 久美	公募委員		出席
15	細谷 巧	公募委員		出席